

令和元年10月3日 市長定例記者会見の要旨

■議題

1. 令和元年第5回市議会（臨時会）の開催について

2. 8月大雨災害による農業被害と支援策について

〔市長〕 関連予算のため、資料に基づき続けて概要説明

〔記者〕 農業被害の支援策には、排水ポンプなどあるがどのようなものか。

〔市長〕 ハウスが主である。現地視察したところ、ポンプやモーターなど水に浸かって使えなくなり、修繕が必要なものもあるためしっかり支援していく。

〔記者〕 台風もあり果樹への被害もでている。農業被害や補正予算の取りまとめはどうなっているのか。

〔市長〕 現段階では、まだ数字が固まっていない。今回の補正予算には含まれていないが、まずは被害額を確定することが大事である。災害対応については、国の補償枠や県の補正もあり、足並みを合わせてやっていく。必要であれば12月議会で補正予算や対策をもちこんでいく。

3. 「後付け安全運転支援装置」の実証実験について

〔市長〕 資料に基づき、概要説明

〔記者〕 他の自治体での事例はあるのか。

〔市長〕 うきは市では安全装置を付ける事業へ市が補助を出している。参考にしながらやっていきたい。運転免許証を返納できない状況もあり、いかに安全に運転してもらうかが大事である。自動安全運転まで至っていなくても、様々な安全装置も必要であると思う。

〔記者〕 うきは市もダイハツの装置か。

〔市長〕 ダイハツに限っていないようである。

〔記者〕 社会実験の結果、装置を付ける方へ補助を出すイメージか。

〔市長〕 イメージはそうである。一定の条件があるだろうが、まずは有効かどうか考えなければならない。行政として個人の資産価値を高めることにもなるので、しっかりチェックをしていかなければならない。安全を守っていく市の姿勢はぶれない。

〔記者〕 実験の時期は来年の3月までであるが、結果の取りまとめはいつ頃か。

〔市長〕 実験の途中でも反応は分かるが、文書でのとりまとめは、実験が終了した3月以降になるであろう。セーフコミュニティフェスタで宣伝をし、市民の皆さんの声も聞いていきたい。

【記者】この取り組みは、市長からダイハツへ持ちかけたものか。ダイハツからか。

【市長】両方である。絶えずダイハツとは議論をしている。ダイハツの技術を生かしたいとの要望もあった。ダイハツ本社の大阪府池田市にも行き、社長・会長と意見交換もしている。その中で、ダイハツも地域にコミットしたい意向もあった。ダイハツから地域へ青パト車の寄贈もあっており、日頃から安全装置や自動運転の話もあってきた。ダイハツとはトップではなく、職員同士のつながりもあり、たえず協力関係をつくっている。

【記者】今回の安全装置は無償提供なのか。

【市長】安全装置はダイハツ車を使用する交通安全指導員へ無償提供である。つくづく防止10台と衝突警報装置31台分の本体はダイハツが負担しており、約100万円相当である。久留米市は取り付ける費用の約50万円を負担する。

【記者】市長就任後、運転免許返納制度を廃止しているが、何らかの事業を検討しているのか。

【市長】高齢者の運転免許返納制度を取りやめるというよりも改善していると実感している。免許返納した人だけが交通弱者ではない。すでに免許を持っていない方や、生活する上で、社会保障にうまくアクセスできない人もいる。全ての市民を平等に考えていかなければならない。コミュニティタクシーの利用補助を拡充し、広く交通弱者に手当をしている。

【記者】後付け運転装置は市販されているのか。この実証実験で何を確認するのか。

【市長】市販のものである。実験の対象は交通安全指導員であり、交通に関心が高い方であり、より安全になったか、どういった効果があったかをヒヤリングやアンケートをすることができ、制度が高いものである。衝突警報措置も青パトにつけるため、交通安全への問題意識も高い。

【記者】今回の安全装置は、ダイハツ車以外にも付けることができるのか。

【森副市長】ダイハツ車だけである。

【記者】全ての車に付けられる安全装置も市販される中で、ダイハツを選んだ理由は。

【市長】ダイハツから100万円の支援があったことや、市内に工場や研究施設もありダイハツからの貢献が大きい。

4. 市政の動き

(1) 久留米市西部地域（城島・三潴）の振興について

【市長】資料に基づき、概要説明（質疑なし）

5. その他

質疑なし